

かみりゅう

第 5 号

平成29年度 通常総会 開催

4月23日、田原集会所において上龍門地域まちづくり協議会の平成29年度通常総会を開催しました。
規約の一部改正や役員交代、平成29年度の事業計画などが決定されましたのでお知らせします。

◎平成29年度役員体制

- 会長 森田隆三（田原）
- 副会長 宮奥昭男（牧自治会長）
- 理事 向弘志（東平尾自治会長）
- 森田憲司（田原自治会長）
- 森口誠明（下片岡自治会長）
- 南勉（栗野自治会長）
- 高尾晃（上片岡自治会長）
- 上西善作（大熊自治会長）
- 萬世晴康（前会長・栗野）
- 尾上力三（防犯防犯部会）
- 中西基高（人権福祉環境部会）
- 梶岡俊之（地域振興部会）
- 事務局長 東勲（市職員・栗野）

5月21日 田原探訪 五月晴れのもと60名の参加

片岡家住宅



この家は三百五十年前に建てられました。そのときの記録が残っています。正確に建築年代が分かるのは全国的に見ても貴重だと言われています。

極楽寺観音堂（神社西側）



菅原神社



大日寺（神社東側）



大日寺 阿弥陀如来座像

火祭りは、この急な階段をたいてまつを担いで駆け上がるんです。しんどいと思うまでには上がらないと、とても上がりませんわ。

極楽寺の本堂は今はありませんが、明治時代には学校となり、また上龍門村の役場庁舎としても使われていました。昭和になると役場は小学校の校門下（今は駐車場）に移りました。大宇陀町に合併後は、庁舎は田原保育園の園舎となりました。

旧田原小学校 校門西側の石碑



上龍門村には田原・四郷・常磐の三つの学校がありました。三校では経費がかさむために一つに統合することを、坂田村長は村民に説明しました。また、村会議員も賛成しました。明治四十二年に新しく校舎が竣工しました。（碑文の概略）

参加者の感想

- 片岡家住宅は素晴らしい建物で、この地域に住まいしていることを誇らしく思いました。
- 片岡邸では当主さんのお話がすばらしく、もっと聞かせていただきたいと思いました。
- 田原地区のことが知れてよかったです。伝統を守ることは素晴らしいことだと感じました。
- 神社やお寺などをゆっくりと見て回ることができ、為になり有意義でした。

平成29年度 年間事業予定	
4月23日	平成29年度通常総会
5月21日	第3回上龍門地域探訪
5月28日	市防災（シェイクアウト）訓練
6月	環境美化運動
6月15～18日	『生命のメッセージ展』
7月25日	着衣水泳講習会
7月29日	廃品（資源ゴミ）回収
11月5日	第4回上龍門地域探訪 上龍門こども大集合
11月19日	防災訓練
11月25日	廃品（資源ゴミ）回収
12月10日	寄せ植え教室
2月25日	健康に関する講座
実施時期未定	『市長と語るふれあいトーク』
	先進地視察研修
	自主防災活動支援事業
通年	交通安全・防犯運動
	上龍門地域の資料冊子作成
年3回程度	まち協だより『かみりゅう』
随時	役員会
	運営委員会
	各部会

日本教育学院高校 第1回卒業式

3月12日、日本教育学院高等学校の卒業式が挙行され、第1回卒業生5人が卒業しました。その卒業式に、上龍門地域まちづくり協議会が来賓として招待されました。



当日は、萬世会長の日程調整ができなかったため、田原自治会長で協議会理事の森田憲司さんが会長名代として出席し、お祝いの言葉を述べました。
【写真】

いのち THEIR LIVES WERE TOO SHORT.

生命のメッセージ展

in 上龍門



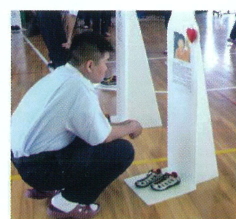
いのち
生命のメッセージ展が6月15日から18日まで、日本教育学院高等学校（旧田原小学校）で開催されました。幼稚園・学校から280人、上龍門地域157人、他地域285人、4日間で合計722人の来場がありました。



「このお兄ちゃんは、お酒を飲んで運転した人にひかれたんですよ。」と説明すると、園児はじっとメッセンジャーを見つめていました。



72名の中学生が来場したときは会場がいっぱいになりましたが、ずっと無言でメッセンジャーと対面していました。



メッセンジャーが語りかける死の現実と生命の重さ。若い人たちの心に深くうったえかけました。



会場に入ると赤い毛糸が手渡されます。「生命を大切にする思い」を赤い毛糸にたくして、一本一本つないでいきます。



土曜、日曜は親子連れで来場する姿が見られました。「子どもがメッセージ展で見たことをいっぱい話してくれるので、私も行きたくなりました。」と話してくれたお母さんがいました。

- 「生命」を「いのち」と読むわけは3つ
- ①生まれる命…赤ちゃんの誕生
 - ②生きる命…今生きていること
 - ③生かす命…亡くなった人がメッセンジャーとなって命の重みをみんなにうたえること



児島さんの講演に100名あまりの方がじっと耳を傾けました。

息子は家から100m程の路上で宅配のトラックと正面衝突しました。救命救急で2週間生きようと闘いました。「お母さん、側にいるよ!」と励まし続けました。息子の回復、そして「今日を生かしてください」とずっと祈りました。生命ほど尊いものはない。生命を越すものはないのだと強く思いました。



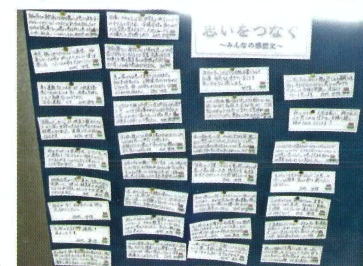
講演会での手話通訳



一人一人にサルビアの苗が手渡されました。



思いをつなぐ
～みんなの感想文～



会場に掲示された感想

〇生き続けられる権利のある若者たちが、^{りふじん}理不尽な命の奪われ方をされて悔しさを感じました。せめて、残された我々が命の大切さを伝えねばと思いました。(40代 男性)

〇全てを我が子、孫と重ね合わせて考えてしまい、胸が熱くなります。もっと生きたかったらと思うと。今は何をさせていただこうと思うと・・・。貴重な時間を与えていただきありがとうございました。(50代 女性)



講師の児島さんを囲んで、まちづくり協議会人権・福祉・環境部会、および人権教育推進協議会の部員さんたち

〇メッセージ展で命について考えさせられました。また、この4日間にこの会場で多くの出会いがありました。たくさんの方が来てくれて本当によかったと思います。

〇上龍門地域の結束を感じました。今後も協力すればいろんなことができると思います。

〇田原小学校がきれいに整備されていてうれしく思うし、これからも活用させてもらえたらいいと思います。